

「倉馬の里」10周年

記念祭開催

入口におしゃれなマネキン人形が歓迎していた。里山倶楽部会長溝口さんの発案。これから何が始まるのか、わくわくしながら進むと、私たちの行事が始まる。

さる11月8日(土)「倉馬の里」の10周年記念祭が開催されました。

9時30分から神事、10時30分から市の岡本農林課長・全報連の尾島会長の来賓挨拶に引き続き、時ノ寿の森クラブの松浦成夫理事長から



マネキン人形がお出迎え

「防災と環境保全につながる森づくり」というテーマで講演をいただきます。

(時ノ寿の森クラブは広葉樹の植林活動を進めており、倉馬の奥の荒れた森林の再生を手始めに最近では津波対策のため沿岸部での植樹に力を入れています。

さらには全国の同志に働きかけ、11月29日「森林再生サミット」が掛川市で開催されました。)

一汁一菜」のおにぎりとお稲荷と豚汁で10周年を祝いました。

秋の好天の下、遠来、地元総勢40名の方々にご出席いただきありが



柴さんの挨拶に聞き入る

とうございました。また準備・設営等お世話いただきました方々にも

厚く御礼申し上げます。

「倉馬の里」は今から13年ほど前に都会から来て居を構え農業をやりたい人のために故宮城翁(当時85歳)が柴桂子さんとふたりで「どこかいいところはないか」探し回った末この場所に行き着いたのです。

その当時、篠竹に覆われた茶園や棚田を宮城翁は400日をかけて篠竹を切り倒し、そのあとにキノコ栽培で発生する廃菌床を約50センチの厚さに敷き詰めその発酵熱で笹の根を枯らしてカンナを植え付けました。

また杉檜の大木の伐採は井上忠さんにボランティアでお願いしました。

平成16年2月11日の建国記念日に開村式を挙行し、榛村市長さんから餅まきをしてもらいました。あれから10年が経過しました。当初予定したほど都会からの移住希望者が少ないので、3年ほど前に掛川の都市部を主体に里山の自然を楽しみたいという方々に溝口博之さんから声をかけていただき里山俱

楽部をつくりました。タケノコ、ワラビなどの山菜とり、花見、燻製作り、花火遠望、など月1回の行事を企画して積極的に活動しております。また今年1000平米ほどの果樹園を開設しました。

今後地元の行事にも参加して輪を広げていきたいと考えております。

どうぞこれからも「倉馬の里」をよろしくお願い申し上げます。(藤本 記)



おともなくかもなく
常に天地は 書かざる
経をくりかえしつつ

二宮尊徳